

バイオクリマ研究会

第13回研究成果発表会

特別講演 要旨

2010年3月13日

古代日本人のバイオクリマ

吉野 正敏
筑波大学名誉教授

現代の日本人のバイオクリマの認識は古代・中世を通じて培われてきた。しかし、ギリシャや中国に比較すると、古代日本の記述は新しく、6-7世紀ころから始まる。今回は、数項目を取り上げ、バイオクリマの認識、バイオクリマとのかかわり、バイオクリマ条件が古代日本人の居住生活・農業社会・都市計画への影響などについて述べる。取り上げる項目は、以下の通りである。

- (1) 出雲風土記に見える温泉医療効果・温泉街形成。
- (2) 日本海岸における冬の季節風による砂の移動、砂丘形成、人間生活や植物生態への影響。
- (3) 常陸風土記に見える海岸部の冷夏、梅雨季の北東気流の発達と凶作。
- (4) 8-10世紀の温暖期における房総半島の例に見られる集落立地の変遷。
- (5) 自然認識・自然暦など、中国からの伝播状況。
- (6) 都市計画、医療・伝染病対策。

以上について、現在得られている研究結果を紹介する。また、古代日本人のバイオクリマとのかかわりと、他の地域、例えば、ギリシャ・中近東・中国などにおける人びとのバイオクリマとのかかわりと比較し、日本人の場合の特徴を明らかにする。